

第1回河川水辺の国勢調査改善検討委員会 指摘事項と対応 参考資料

【No.13 指摘事項】

調査地点の削減の可能性については、Web-GIS を活用し全体を俯瞰してみることで見えてくるのではないかな。

【対応】

調査地点分布図について以下に示す。また、Web-GIS による調査地点の閲覧は H23 年度からできるようになる。

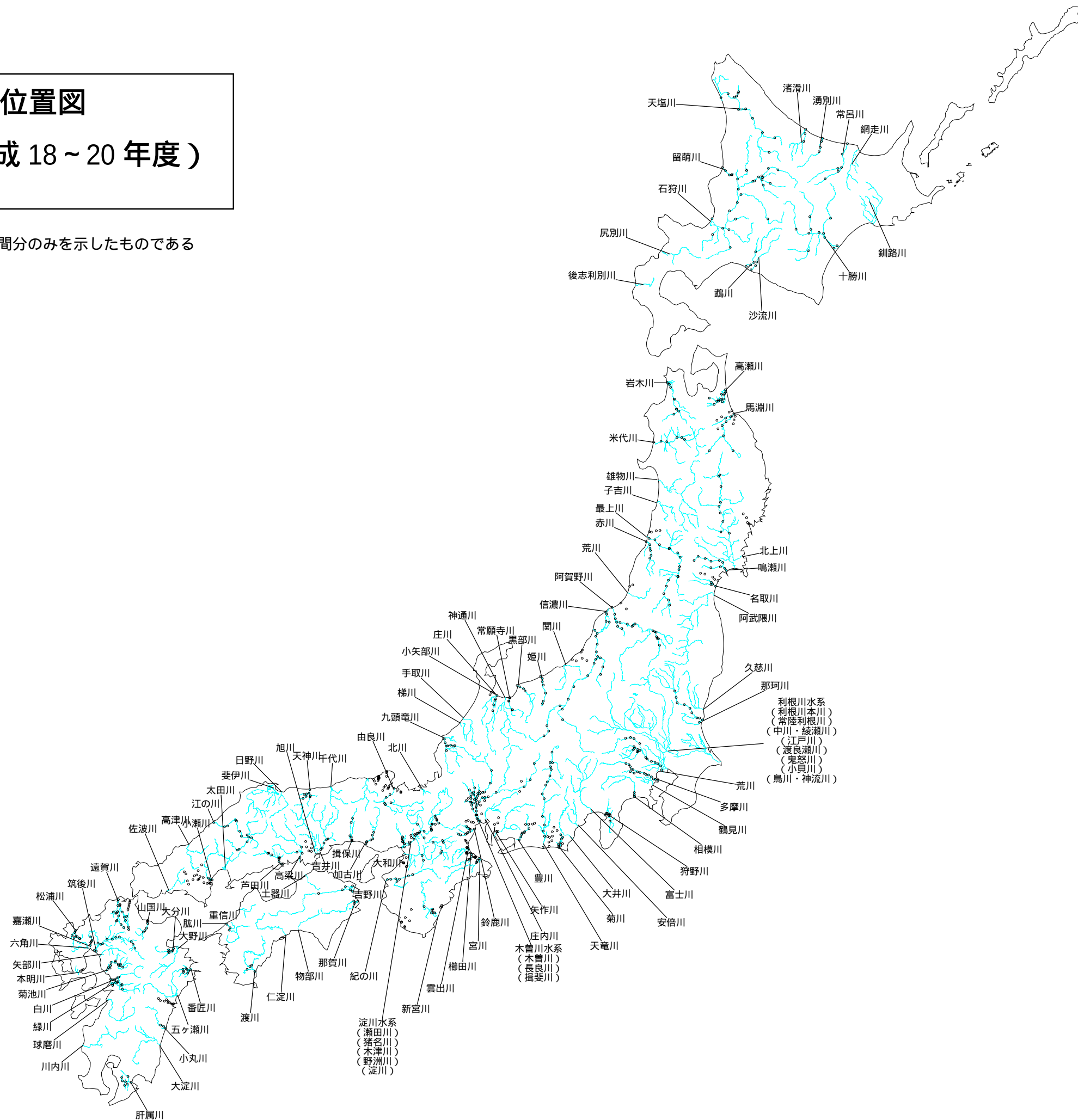
魚類調査地点位置図

4 巡目（平成 18～20 年度）

魚類調査地点位置図

4 巡目（平成 18～20 年度）

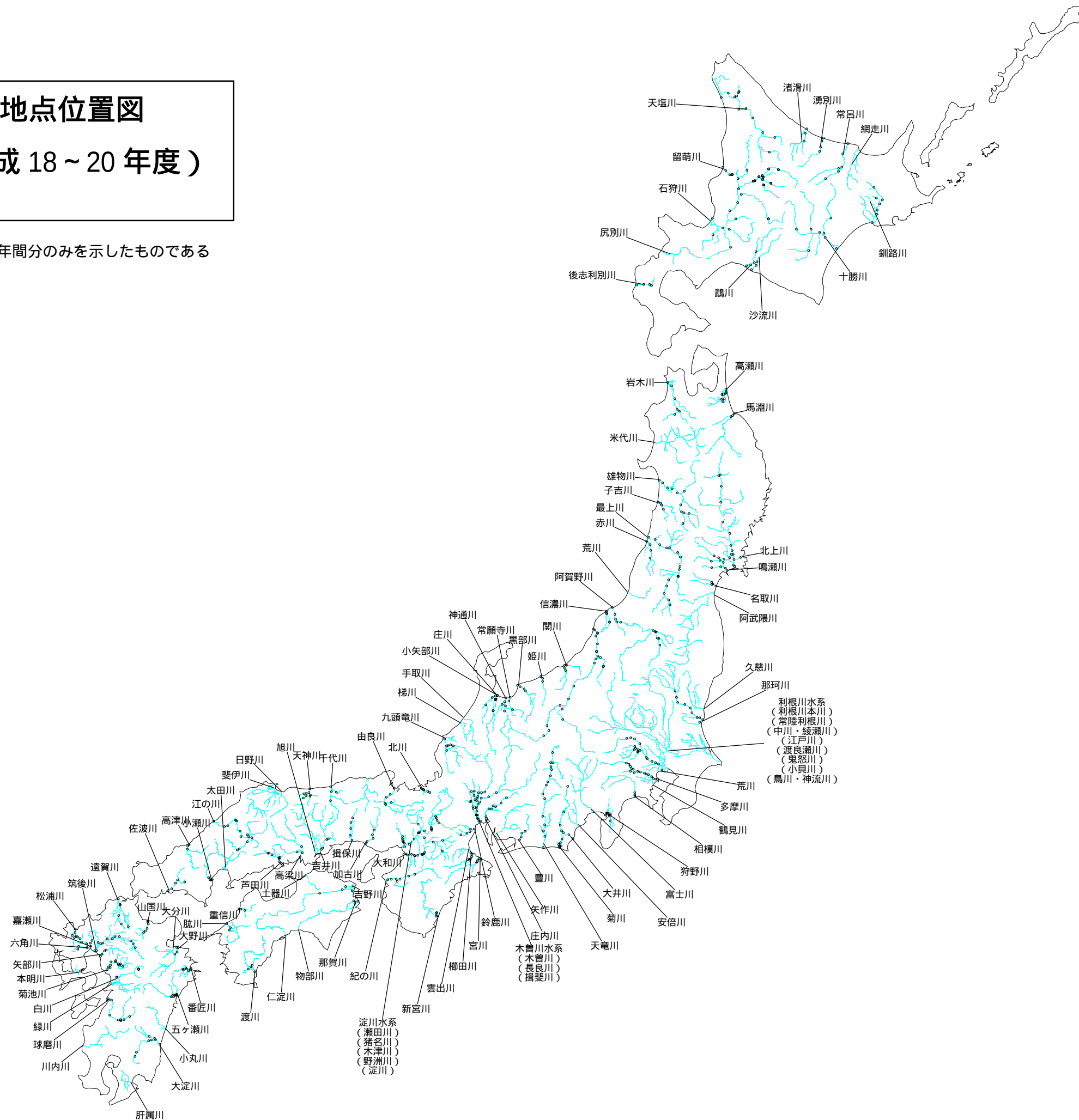
5年で1巡する内の3年間分のみを示したものである



底生動物調査地点位置図
4 巡目（平成 18～20 年度）

底生動物調査地点位置図
4 巡目（平成 18～20 年度）

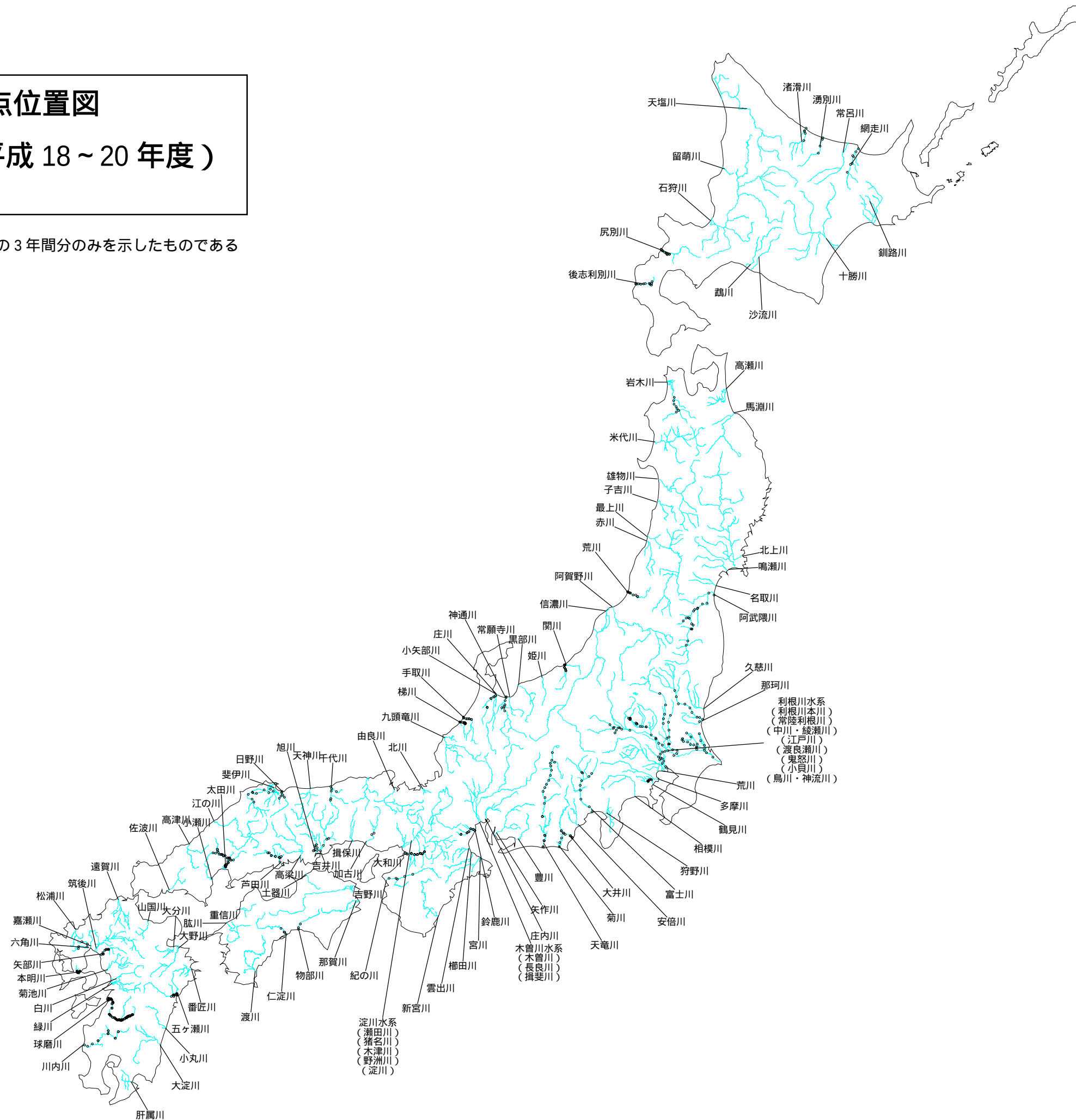
5年で1巡する内の3年間分のみを示したものである



植物調査地点位置図

4 巡目（平成 18～20 年度）

10 年で 1 巡する内の 3 年間分のみを示したものである



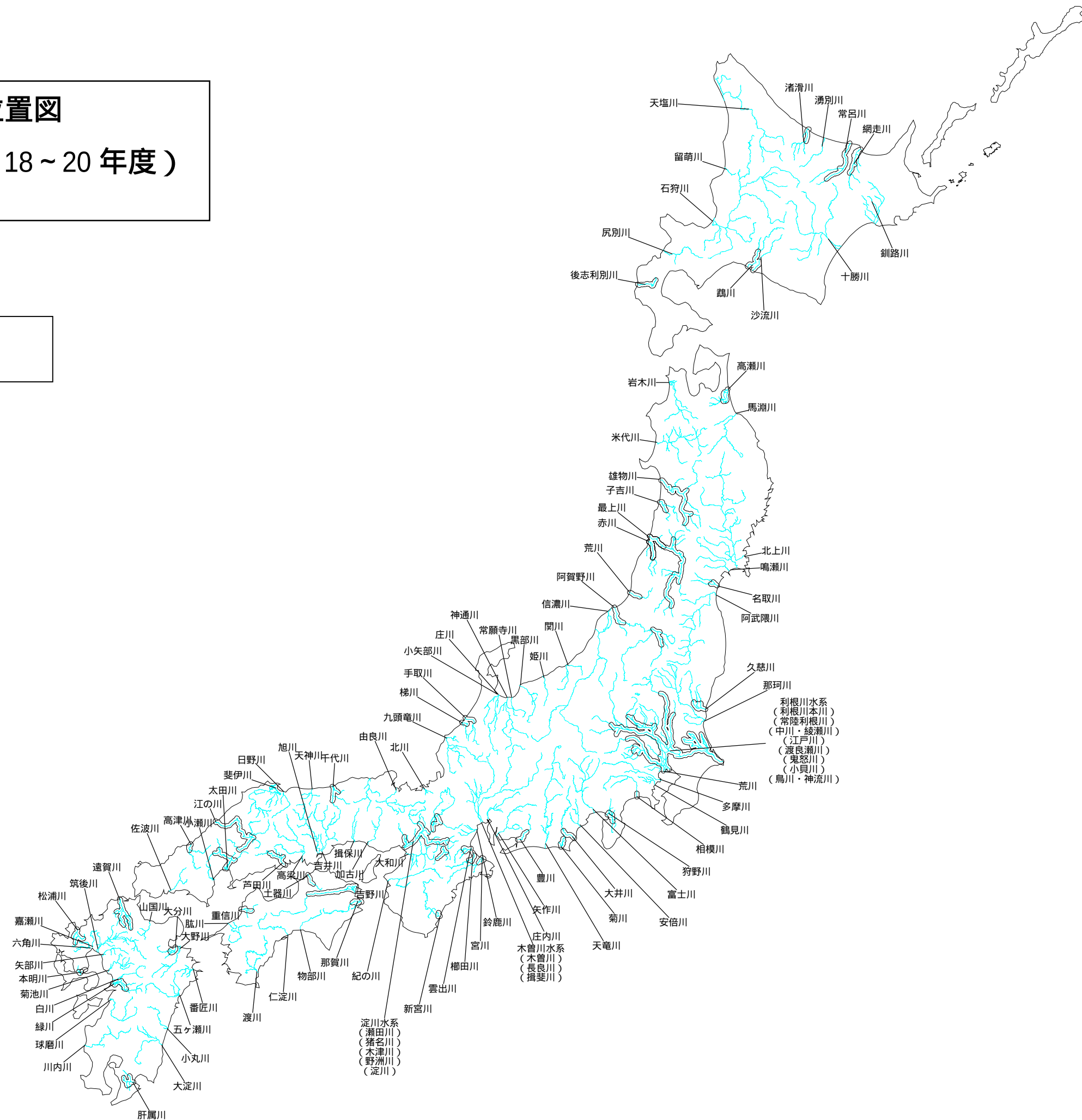
鳥類調査地点位置図

4 巡目（平成 18～20 年度）

10 年で 1 巡する内の
平成 18 年度以降、鳥

凡例

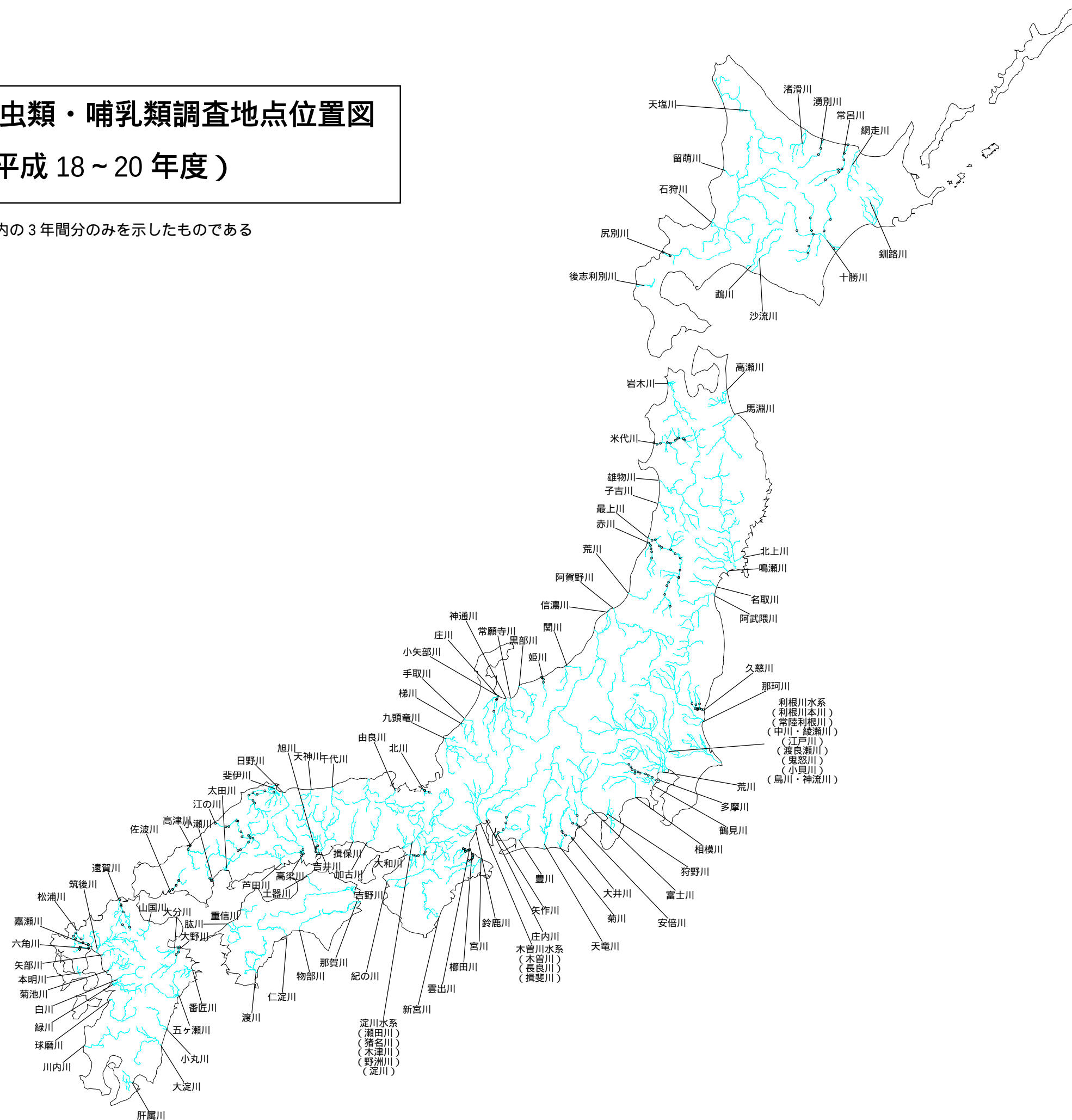
調査範囲



両生類・爬虫類・哺乳類調査地点位置図

4 巡目（平成 18～20 年度）

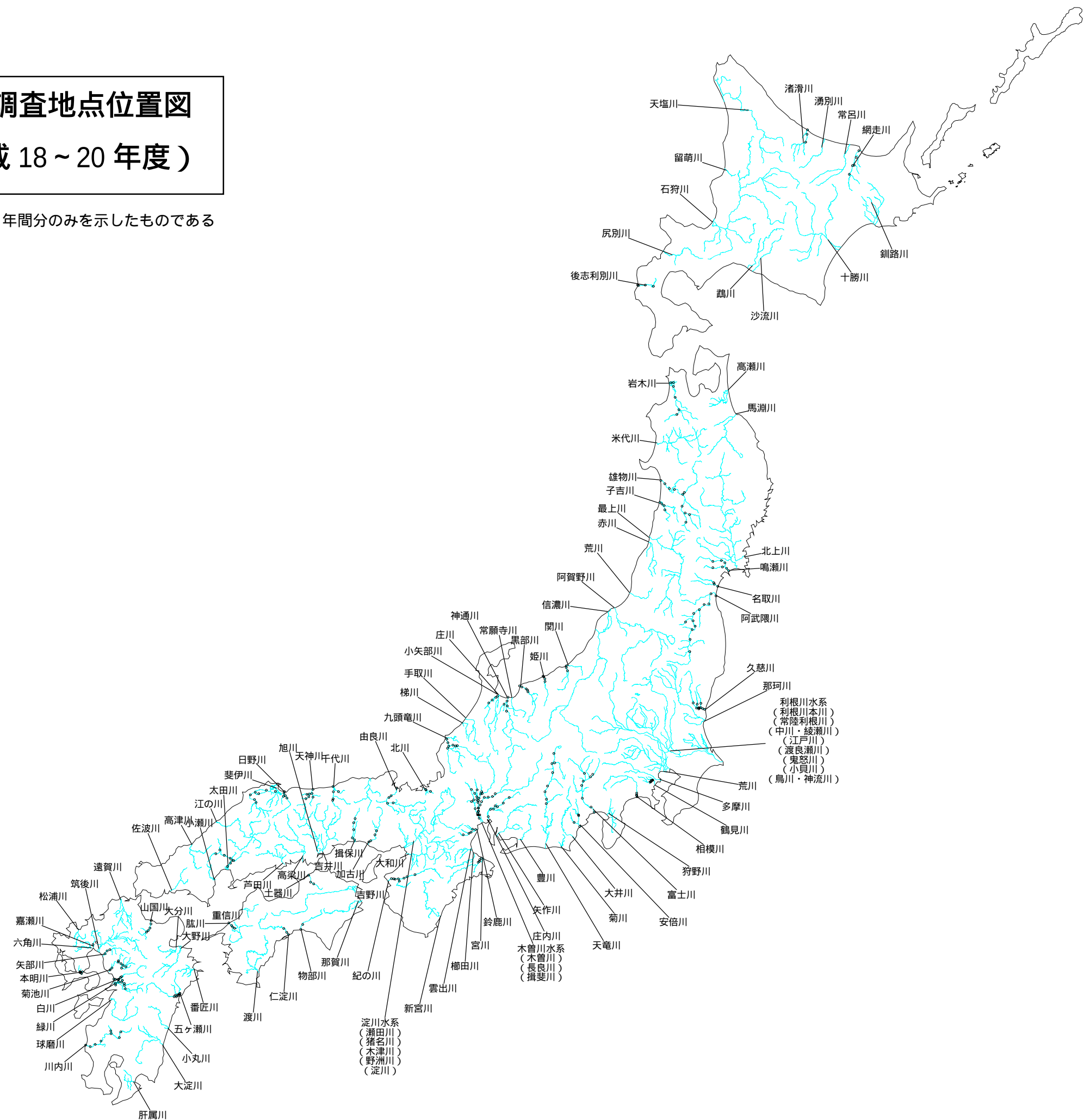
10年で1巡する内の3年間分のみを示したものである



陸上昆虫類等調査地点位置図

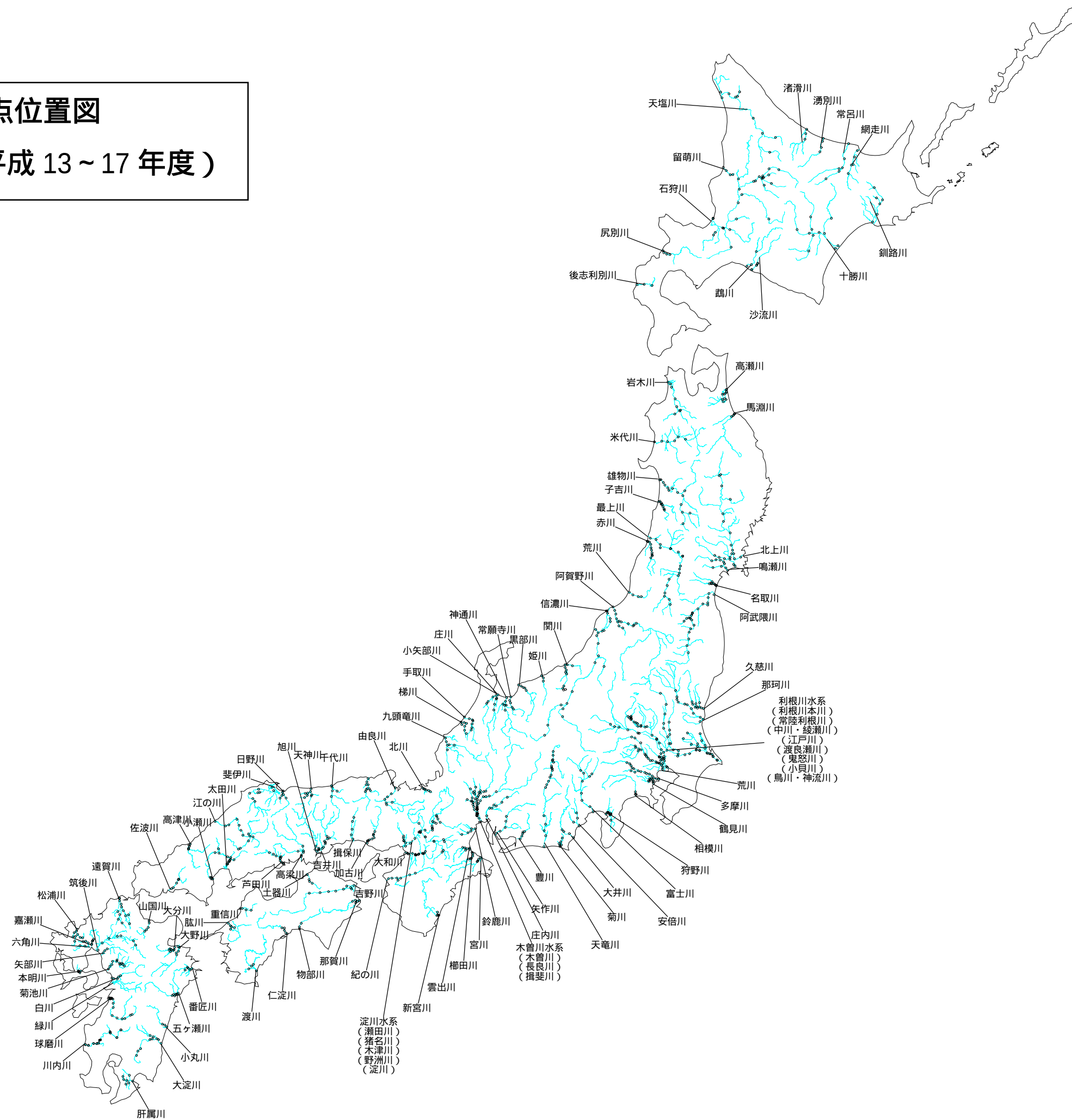
4 巡目（平成 18～20 年度）

10年で1巡する内の3年間分のみを示したものである



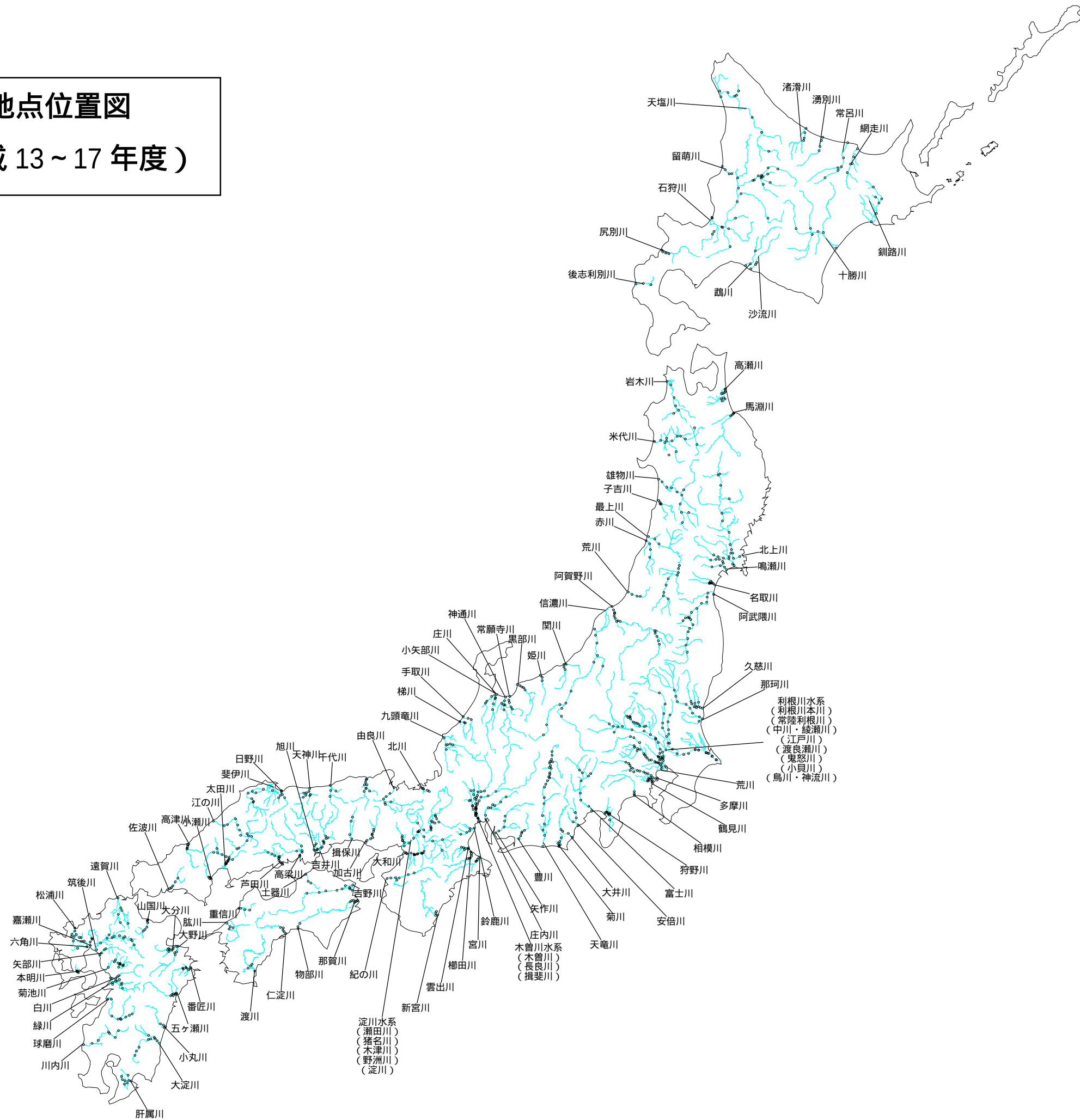
魚類調査地点位置図

3 巡目（平成13～17年度）



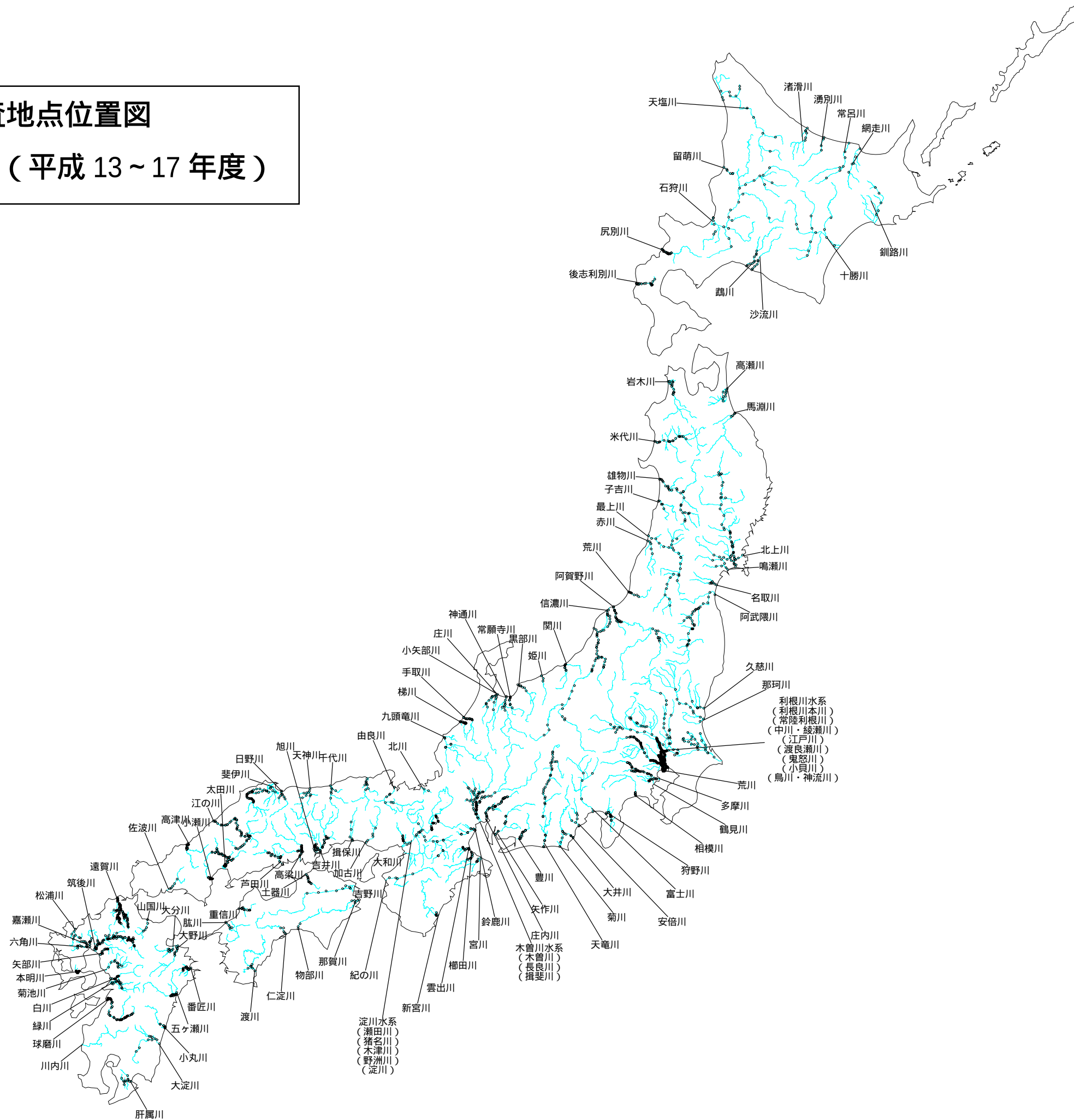
底生動物調査地点位置図

3 巡目（平成 13～17 年度）



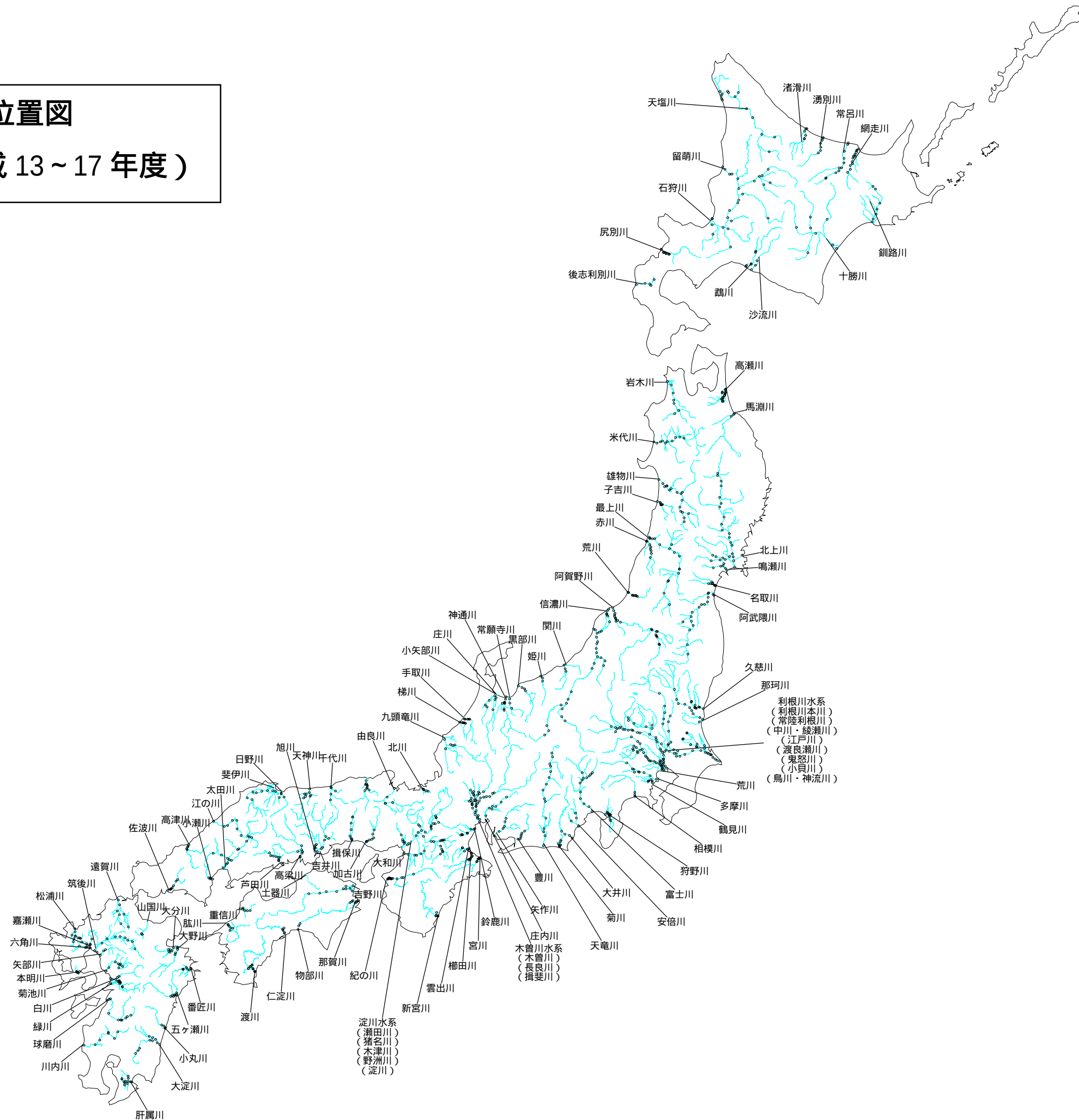
植物調査地点位置図

3 巡目（平成 13～17 年度）

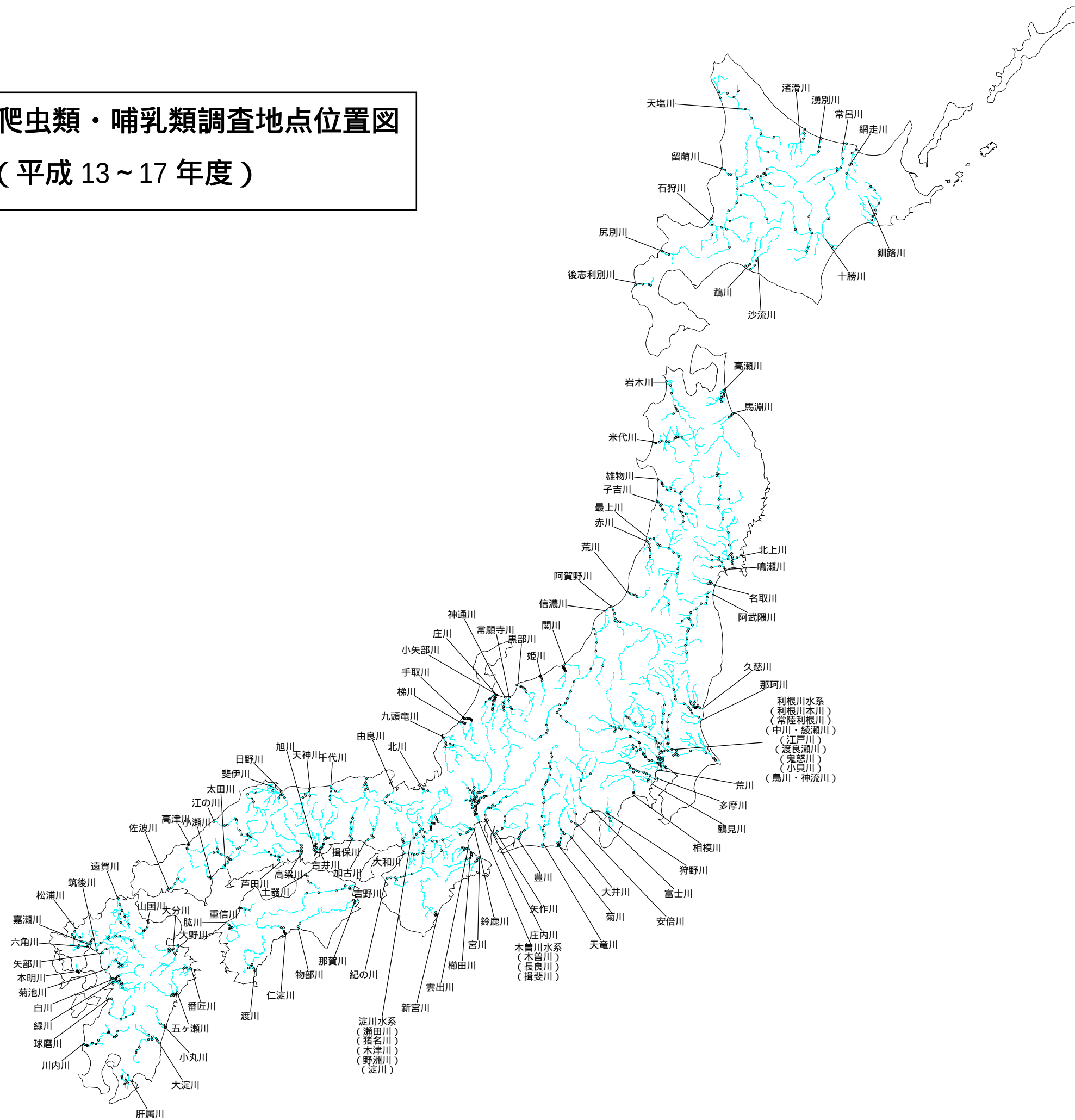


鳥類調査地点位置図

3 巡目（平成13～17年度）

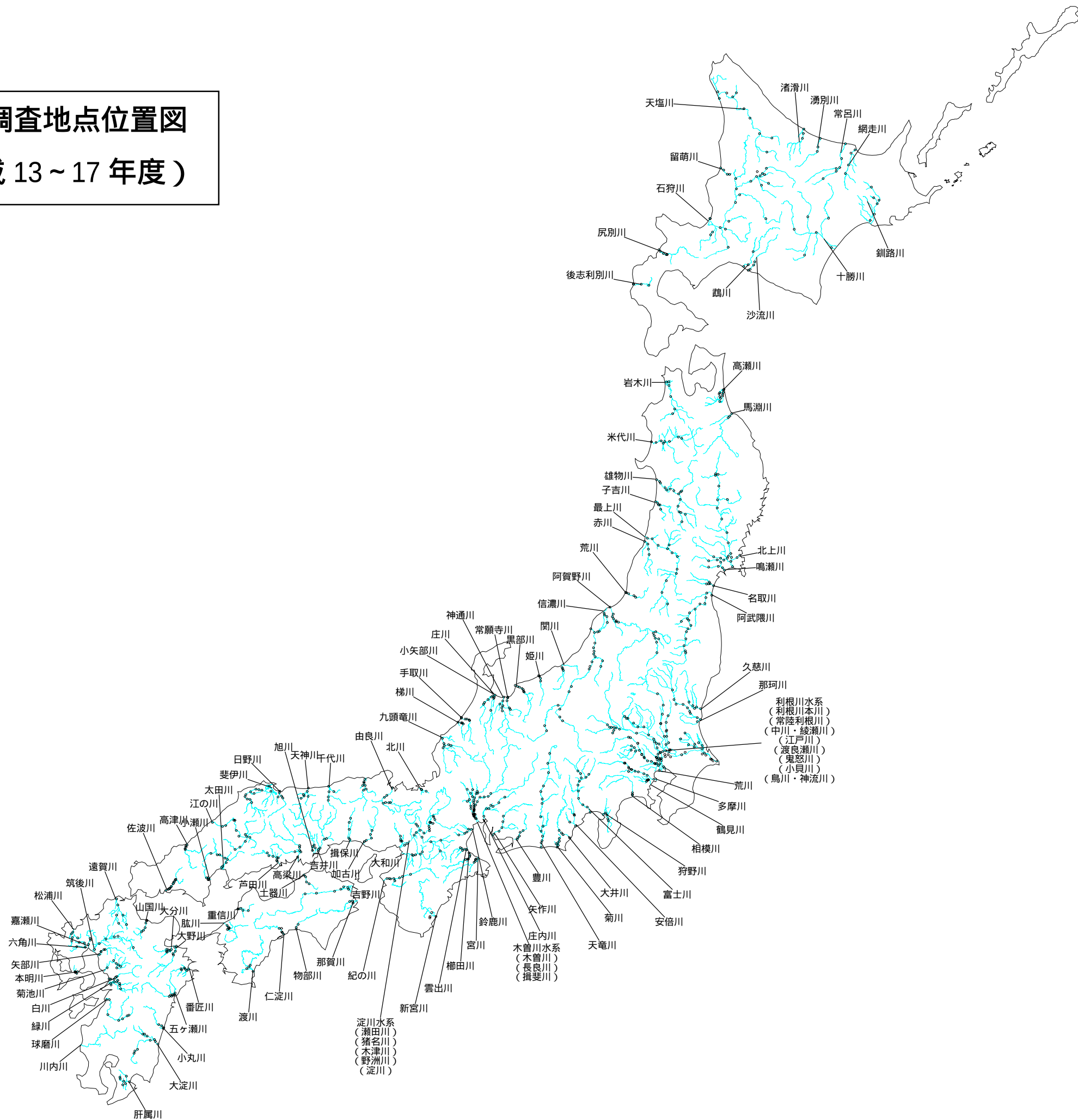


両生類・爬虫類・哺乳類調査地点位置図
3 巡目（平成 13～17 年度）



陸上昆虫類等調査地点位置図

3 巡目（平成 13～17 年度）



【No.15 指摘事項】

調査頻度は5年に1回でも長く、10年に1回というのはあまりにも長い。調査内容を見直してでも最低5年に1回は維持すべきである。また、頻度を増やすべき分類もある。例えば両生類は、10年に1回の調査では、気付いた時には絶滅していたということがおこりうるのではないか。

【対応】

両生類（環境省レッドリスト掲載種）について調査サイクルを5年から10年にした場合の確認河川数、確認地区数の変化を示す。

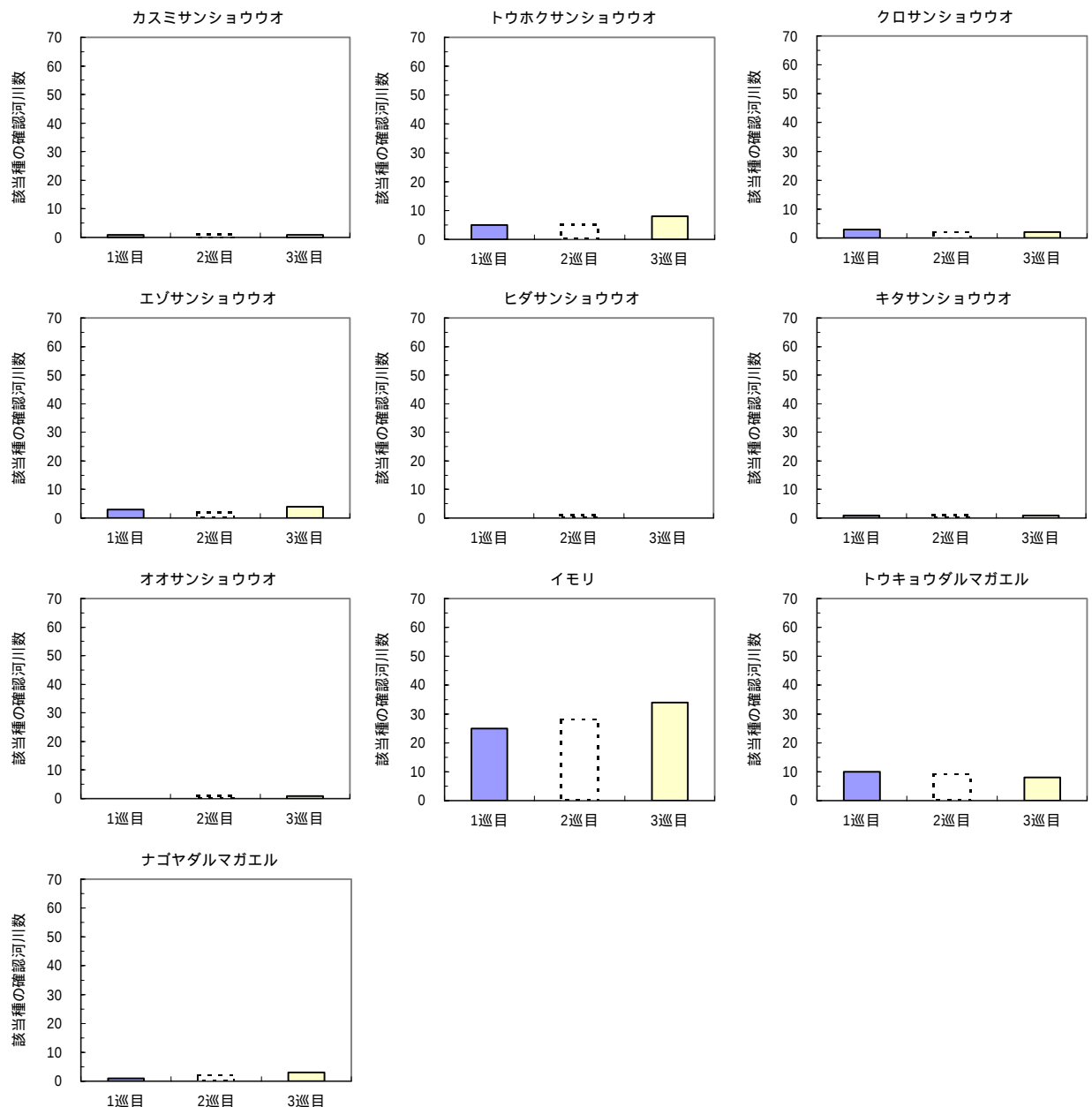
表 両生類対象種一覧

対象種	環境省 レッドリスト 2006 年版
カスミサンショウウオ	絶滅危惧 II 類
トウホクサンショウウオ	準絶滅危惧
クロサンショウウオ	準絶滅危惧
エゾサンショウウオ	情報不足
ヒダサンショウウオ	準絶滅危惧
キタサンショウウオ	準絶滅危惧
オオサンショウウオ	絶滅危惧 II 類
イモリ	準絶滅危惧
トウキョウダルマガエル	準絶滅危惧
ナゴヤダルマガエル	絶滅危惧 IB 類

以下の図においては、調査サイクルを 10 年にした場合の両生類（環境省レッドリスト掲載種）の確認河川数の変遷をイメージするために、2 巡目データを白抜きにして表示した。

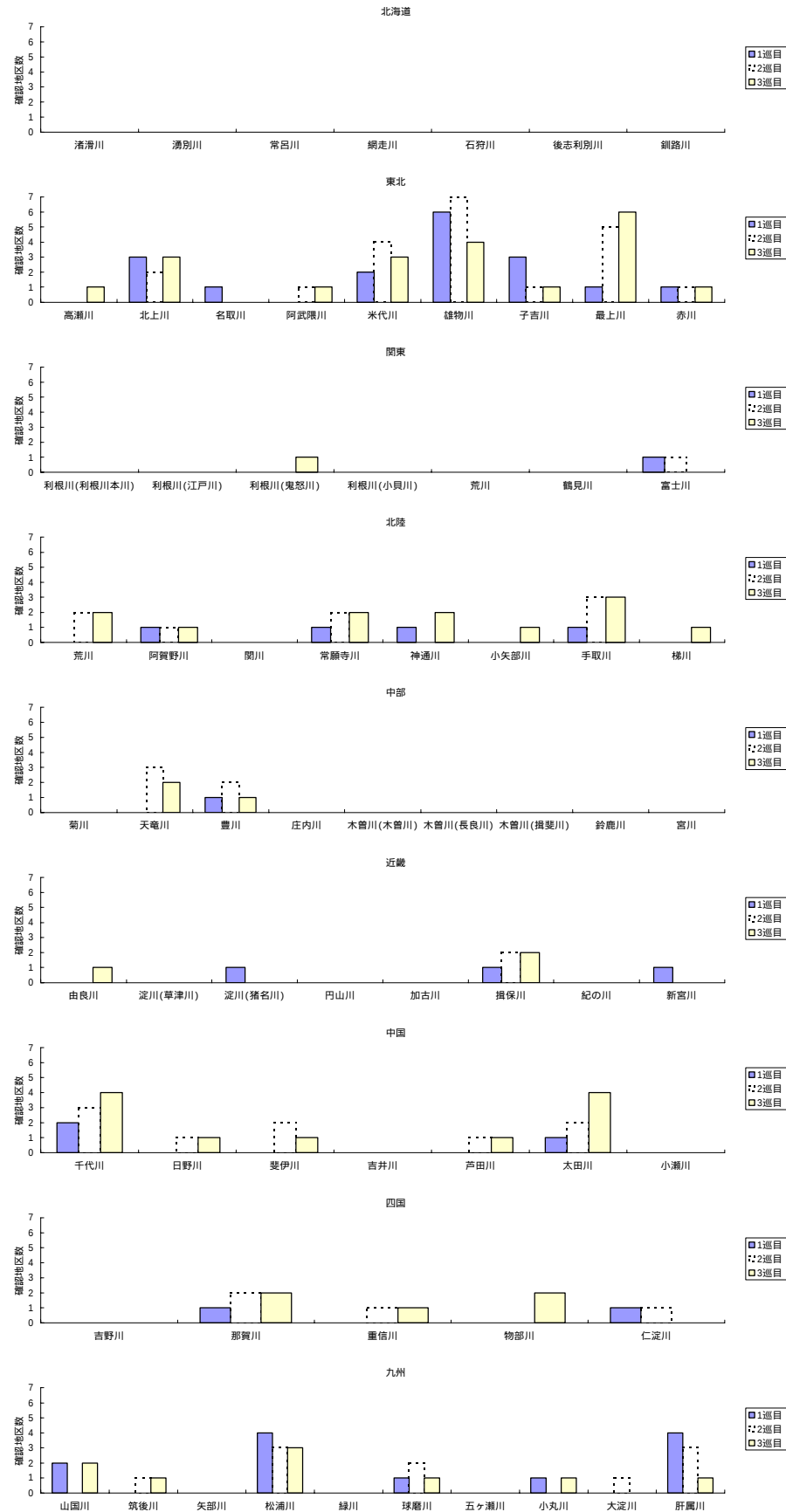
2 巡目データがない場合、両生類の確認状況の把握は遅れ、情報の解像度も低下する。

両生類確認河川数の経年変化



2 巡目データがない場合、イモリの確認地区数は、多くの河川で増減の確認が遅れるといったことが示された。

イモリ確認地区数の経年変化



原則として1巡目は平成2～7年度、2巡目は平成8～12年度、3巡目は平成13～17年度
対象河川は1～3巡目データが電子化されている70河川を対象とした